

JOMF 派遣医師便り (2018. 1)

◆マニラ◆

トンドのクリスマス 2017年12月24日

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

2017年12月24日クリスマスイブの朝、ごみの最終集積場トンド地区へ妻と共に向かいました。

マカティ、マニラは道沿いのクリスマスデコレーションが華やかですが、トンドにはクリスマスの飾り付けが全く見当たりません。しかしこれまで訪問した時とは異なる印象です。街中の人々は笑顔で、ギスギスに痩せている人は少なくなった印象です。治安も改善して皆が安心して街中を歩いているように見えます。新しい大統領のおかげで治安が改善したのでしょうか。

ゴミ最終集積場での一場面

ゴミ集積場に近づいたところで、道路沿いでバケツに貯めた水で体を洗っている男性がいます。シャワー設備がまだ十分ではないのでしょうか。その体は石鹸のブクブクの泡に包まれています。周囲では上半身裸の子供たちが鬼ごっこをして走り回っています。

ゴミ山の中からペットボトルを拾い集めている4人家族がいたので話を聞きました。父親40才、母親34才、子供は男の子2人で小学校の6年生と中学1年生。町が提供してくれている施設に住んでいるそうです。父親はトラックから掻き出されたごみの中からペットボトルだけを探して分別し、母親と子供たちはペットボトルの外についているビニールをはがしボトルのふたを外し、プラスチックの本体のみを集めて大きな袋に入れていました。これらをお金に換えているそうです。ペットボトル1kg集めると10ペソ(約25円)稼げるそうです。1日の稼ぎは多い時には約300ペソ(約750円)になるとのこと。笑顔で話してくれました。家族がみんなで協力し、ゴミの中からペットボトルを見つけ出しては潰し、汗びっしょりかきながら大きなビニール袋に詰め込んでいます。

時々ペットボトルの中に液体やジュースの残りが時々残って入っているのを見つけると、母親はその液体の安全性を確認する様な仕草をしてから男の子に手渡します。子供はそのボトルに残っている液体をゴクンゴクンと飲んでいきます。とても喉が渇いている様子です。母親に「腹痛や下痢はないのか？」聞きましたが、「家族皆が健康です」とのことでした。

祈：健康に気を付けてくださいね。メリークリスマス。

この光景は眼に焼き付いて忘れられません。

その場を後にして TONDO Medical Center を訪問しました。行く途中にレチョン（豚の丸焼）を焼いている場所に遭遇しました。しかしブタの胴体は無く、頭と尻のみがピチピチと焼かれています。頭と尻は買い求めやすいのでしょうか。

去年は病院のゲートを通るのが簡単でしたが、今年は security check がかなり厳しくなっていました。町は安全になり、また病院の出入りなどはかなり厳しくなっているのを感じました。（ドゥテルテ大統領の影響でしょうか？）

その後 Navotas 地区に進んで行きました。この辺りは終戦直後の日本にタイムスリップしたような風景が立ち並んでいます。流れの無いよどんだ川岸に、細い柱で建てられたトタン屋根の家が何軒も連なっています。屋根は多数の穴が開き、大風で吹き飛ばされそうな造りです。窓にはガラスはありません。床下の川にはゴミの絨毯が敷き詰められています。痛烈な匂いが周囲一面を覆っています。しかし住民たちはスマートフォンでメールを楽しみながら日暮れの時間を穏やかに過ごしているようでした。不思議な光景です。

クリスマスの日にもゴミを分別し、ペットボトルを集めている家族の姿を思い浮かべながら帰路につきました。家族みんなで力を合わせ、額に汗をかき、家族一人ひとりのキラキラ光る瞳を思い浮かべながら、フィリピンの人々の力強さを改めて感じたクリスマスの日でした。